

グループホームさかい(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 10 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	1871700397
法人名	社会福祉法人 坂井来春会
事業所名	グループホームさかい
所在地	福井県坂井市坂井町折戸第1号58番地 (電話) 0776 - 72 - 7373

評価機関名	福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽二丁目3の22		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成19年10月1日

【情報提供票より】 (19 年 8 月 21 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 10 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人、非常勤 2 人、常勤換算 13 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4)利用者の概要 (8 月 10 日 現在)

利用者数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	9	要介護2	3
要介護3	6	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	春江病院、大野歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、母体である老人保健施設の2階フロアに2ユニットが配置されている。併設の老人保健施設との連携により、緊急時の対応や重度化・ターミナルケアへの対応等で入居者及び家族にとって安心・安全への仕組みが構築されている。また、地域密着型サービスとしての位置づけに加え、入居者ニーズも以前にも増して地域との関わりという点で高まりつつある中、前回評価からの課題を踏まえ、積極的に対応してきている。日々の暮らしにおける支援では、特に家族とのコミュニケーションを重視し、面会時における窓口を一本化し、ホームの情報提供や、集約した家族の意見や要望を確実に運営に反映させ、信頼関係の強化につなげている。地域社会との交流に当たっては、市にも働きかけて、地域活動への参加を進めたり、運営推進会議における地域代表の意見を反映させ、防災マニュアル作りにつなげるなど、グループホームと地域との連携に努めてきているが、立地条件等のハードルも克服し、一步一步着実な取り組みへの努力を多に期待したいホームである。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、グループホームの情報発信、地域住民との交流、外部研修受講の計画的推進が課題として挙げられていたが、ホーム便りの発行をはじめ、課題に対する取り組みのステップが踏み出されており、引き続きの実践が期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価から一年間の自分たちの仕事の評価として、計画作成担当者を中心に一つひとつ確認しながら自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議では、地域の代表者として民生委員、公民館長が参加し、グループホームの現状や外部評価等を説明する機会が持たれている。会議での意見や要望を実現する形で防災関連マニュアルが作成されるなど、ホームの運営に反映されて、効果を生んでいる。ホームの立地条件から考えると、更なる地域代表者の参加を募り、ホームの理解と現状を広く知らしめることが望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族とのコミュニケーションでは、特に面会時における情報提供・意見交換を重要と捉え、ホーム側の窓口を一本化し対応している。ホーム便りの発行や行事風景の写真等をホーム内に掲示することによって、家族に日々の暮らしを理解してもらったり、運営推進会議の機会など対面で忌憚のない意見を求めているという姿勢が、家族とホームの信頼関係のより一層の深まりにつながるよう期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>積極的な市への働きかけや運営推進会議を通じて、地域活動への参加と検討が行なわれ、地域住民との交流も徐々に増えつつある。ホーム主導で地域との関わりを一層持つことで情報発信の機会となり、地域密着型サービスが目指す「地域との連携」につながるが大いに期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員はそれぞれ自分なりに、「親切、和やか」な対応を心がけ、開所当時から皆で作上げた理念の実現に努めている。		制度改正により、グループホームが地域密着型サービスに位置づけられたことを踏まえ、「地域住民との交流」や「地域との連携」などすでに取り組まれている実践に合った理念の再検討も求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はホーム内を巡回し、入居者や職員とのコミュニケーションを大切にしている。事業所の要所要所に理念を掲げ、内外に示すとともに、職員には計画作成担当者が常に気を配りながら、理念に基づくケアの実践について繰り返し伝えている。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に、地域住民との日常的な挨拶や言葉を交わす機会が少ないが、運営推進会議をきっかけとして、地域活動への参加や検討が進められている。		地区の運動会や敬老会にも参加しているが、一つひとつ確実に、丁寧に実践することでホームの事業や考えが定着するよう引き続きの取り組みが期待される。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を真摯に受け止め、ホーム便りの発行等具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、公民館長、家族を委員として、ホーム運営に係る説明、意見交換の場が持たれている。		ホームは人家から離れており、日常的な住民との交流の機会が少ないため、なおさらに、より多くの団体に委員として参加してもらえよう、一層の働きかけが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	旧町単位で行なわれる市主催の敬老会に参加できるよう市に働きかけ、協力を得たり、施設の行事で行政に参加してもらうなど、望ましい連携が図られている。		
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の対応窓口を計画作成担当者に一本化し、ホームとしての考えや連絡、家族からの要望等を、確実に集約、報告する仕組みを設けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者や家族を委員として、運営に関する意見等を聴く機会を持つほか、面会時の窓口の一本化、ご意見箱の設置等により意見を収集し、運営に反映させるよう取り組みが行なわれている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの特性を踏まえ、従来より、異動は必要最低限にとどめている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会も設けているが、ホーム内での人材育成を主としている。認知症関連の外部研修や計画作成担当者による内部研修を計画的に実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する際に、情報交換しながら交流を図っている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の居宅介護支援事業所と連絡を取り、グループホームの見学や事前の調査等を行い、家族と相談しながら入居を決定している。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらから喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、入居者に教えてもらいながら支えあう関係を大切にしている。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で何らかの役割を担ってもらったり、声かけで行動を促したり、表情等確かめながら本人の気持ちに沿うよう心がけた支援に取り組んでいる。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の介護計画の作成と実施を基本に、居室を担当する職員と計画作成担当者との話し合いにより、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回を基本に、状況の変化があった場合はその都度、介護計画を見直している。一人ひとりの介護計画の理解と実行については、職員が日常的に目を通して確認するようにしており、かつサービス提供後の記録もしっかり残しモニタリングに反映している。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の老人保健施設とは、勤務医による健康管理や緊急時の対応、重度化への対応で連携が図られているほか、リハビリやマッサージ、食材の調達等でも入居者の行き来がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医やホームの協力病院等家族の希望に応じて受診できるようになっている。かかりつけ医への受診は家族の協力を得て実施しており、協力病院で受診する場合のみホームの職員が付き添い支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	加齢やその他の理由によりADLが低下し、ホームでのサービス提供が困難と認められた時は家族と協議の上、母体の老人保健施設への入居等適切な措置を講じていく方針としている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	不適切な言葉遣い等があれば職員間で注意し合ったりして、意識向上を図る対応がとられている。排泄等の支援もさりげなく対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は声かけで行動を促したり、会話しながら入居者の気持ちを理解し、一人ひとりのペースに応じた支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは入居者に手伝ってもらいながら職員と共に行っている。一緒に食事を食べ、会話をはさんだりして、日頃から穏やかな雰囲気支援している様子がみられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴も含めて、一人ひとりの希望に合わせた回数、時間を設け、本人のペースに応じて、柔軟に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や本人の話から、趣味のもの、調理などの活動による楽しみごとを日々の暮らしに適宜組み入れている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣には店などが無いので、日常的な買い物等の外出支援はできていないが、中庭や周囲への散歩の機会を多く持つようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階の内玄関や非常階段は止むを得ず施錠しているが、ユニット間の自由な往来で開放感を持たせている。入居者の外出したい素振りが見られた時には、職員が同行して気持ちに沿うよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の意見を反映する形で従来の災害マニュアルに加え、新たに地震・火災マニュアルを市防災課の協力を得て作成している。避難訓練も年2回、消防署の指導により実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事摂取を記録し、看護師や併設施設の管理栄養士の助言、指導を得ながらバランスの良い食生活の支援に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品や行事等の活動内容を記録した写真を掲示しながら、生活感ある空間づくりを工夫し、壁面や家具類も落ち着いた色調、しつらえとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホームの据え置きとなっているが、入居者はテレビ、衣類かけ、時計等思い思いの馴染みの品を持ち込んで、個性ある居住空間をつくっている。		

■は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中での親切、思いやり、和やかさを実践している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎日ホーム内を巡回し、利用者や職員のコミュニケーションをたいせつにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用説明時に文書を提示して説明すると共に、ホーム内にも数箇所目につけるとともに掲示している。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地区の行事にはできる限り参加し交流を図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の体育会などの行事に参加すると共に、市主催の敬老会などの行事に積極的に参加し、地元の方々と利用者、職員の交流を図っている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の方々も参加を呼びかけて、施設で介護教室を開催している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえて、施設の運営や業務の改善を図ろう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で利用者や委員の方の意見を踏まえ、利用者のサービス向上や改善に努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行事や活動に参加すると共に、施設行事の理解を深めるために納涼祭などの行事に行政の参加を頂くなど連絡を密にしなが、質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の方が1名入所しており学ぶ機会を得ている、他の人にもこの知識を生かしたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は利用者の虐待が起きないように細心の注意を払い尊厳を守るように努めている。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に重要事項説明書、契約書を提示して利用者、家族に説明し理解を得た上で利用契約を結んでいる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は毎日ホーム内を巡回し利用者とのコミュニケーションを図りながら利用者の意見、苦情等を聞き対応している。また、運営委員会に利用者代表も出席して意見を聞いている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりはホームだよりを送付し報告している。個々の状態等についてはその都度家族に連絡し関係を密にしている。		利用者の施設での個々の生活の状況を詳細にお知らせし安心して頂くために、新たに「グループホームさかい」を発行して家族に送付している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会に家族、利用者を委員として出席を頂き、施設の利用上の意見、苦情等を伺い施設の運営に反映できるように努めている。		施設のサービス等に関し利用者、家族の苦情や意見等の申し出しやすい環境を作るために、苦情解決実施要領を作成し、職員の適切な対応とサービスの向上を図りたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の勉強会やミーティングの機会に運営についてはなしあいをしている。また、職員に業務改善提案制度を導入して意見を施設運営に反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットで常勤職員でローテーションを組んでおり、利用者とも馴染みの関係が築かれている。夜勤の緊急時にも2名の夜勤者が協力体制が取れるようになっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望も取り入れて必要最小限に抑える努力をしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各団体主催の研修会には、計画的に全職員が受講できるよう配慮している、また受講した職員を講師に施設内で再研修を実施している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の機会を活用して施設間の交流を図っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	研修旅行や親睦会に参加させて職員間の親睦を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者が毎日職場を巡回して職員の勤務状況や仕事上の相談に乗りながら職員の支援に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	会話できる機会を多く持つようにして、不安等が生じないよう受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	利用申し込み時よりよくお話を伺い、家族の不安解消等のために、よく傾聴して受け止めるようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向を踏まえもりハビリやマッサージのサービスも支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が見学や体験をして頂き理解を深めるように努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者の方より教えを頂いたりしながら利用者との支え合う関係を密にしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方を仲間にして相談しながら利用者の方を支えるように努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の方の良い所を家族にお話し、より良い関係が築けるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所への外出をさせて関係が保てるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し支えあえるように支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されても病状を把握して状況によっては再入所ができるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者の意向を把握して、本人の意向が反映できるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの生活習慣や暮らし方について家族の協力を得て把握するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状を把握して、その人らしい過ごし方をできるように支援している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画を作成するように職員全体で討議して支援をしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に見直しながら、他に変化が見られる場合はその都度現状に即した計画を作成して対応している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に関する日常の状況等を詳細に記録した個別の生活記録ファイルが整備されており、日々のケアや介護計画に反映できるような仕組みになっている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族とのコミュニケーションをとり多機能性を生かした柔軟な支援を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	かかりつけ医や歯科医について往診の援助を行うと共に、利用者の意向がある場合は、母体施設でのリハビリ、マッサージなどのサービスなども実施している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医に受診しており対応の助言も受けている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の老人保健施設の医師、看護師によって緊急時の相談や処置の対応が可能である。また看護師有資格者が1名配置され相談等の対応ができる体制にある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を有する職員の指導で、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。必要に応じて母体施設の看護師の応援を得る体制が整っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には家族と連絡を密にしながら病状を把握し、早期退院に向けた話し合いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医との関係を密にし、病状に即した対応が家族と共に行えるように努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>病院との連携をとりながら、利用者の病状について絶えず家族の相談にのるなどの支援を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>互いに情報提供を行える限りダメージを受けないように全職員が努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の記録は責任者が責任を持って事務所で保管し、利用者の目の届かないところで、記帳に努めている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>献立、入浴、外出など入居者の希望を聞く機会を日常的に持っている。入浴日については予め定められておらず利用者の希望に応じて。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入所者のペースに合わせた個別の対応で支援し、ゆったりとした生活ができるように対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入所者の希望に合った化粧品を持っておられる方も居る。利用者の希望により、母体施設の理髪を利用される人も居る。また、本人の希望により、家族一緒に外出して他の理髪に行く人も居る</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、食事、後かたづけ等を職員と利用者が共同で行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>なるべく利用者の各々の嗜好を聞いて、健康的に暮らせるように支援をしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄状況を記録すると共に、個々の排泄パターンを把握しておりさりげない声をかけ誘導が行われている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に合せた回数、時間帯、湯加減等気持ちよく入浴できるよう配慮している。入浴の順番が無いため入浴を嫌う利用者には気持ちや気分を大切にされた入浴支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	運動や作業で日中の活性化を図り安眠へとつなげている。また、夜起きてくる利用者にはお茶を提供してしばらく会話することで穏やかな気持ちになるよう接している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者からの会話、家族からの情報のもとに裁縫、調理、野菜作り等日常生活の中に取り入れた活動を共にしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自らのお金を持って買い物の支払いをする利用者もいるが、自分でお金の管理ができない人は、職員がお金を預かり本人同行の上買い物をして支払いは職員がする。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出られる場合は職員と家族と協力して一緒に出られるように努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出日を設けて家族とも調整して外出を支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた手紙を書いて出したりできるよう支援している。年賀状は自分で書いて皆さん出された。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は特別の場合以外は、気軽に訪問できるような環境にしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の是非について認識しており、拘束は行われていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の了解により内玄関の施錠により自由な外出は制限しているが、職員同行にて外へ出ることが多い。ユニットは廊下で通じており日中の往来は自由で開放感を持たせている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在や様子を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に、台所の包丁、薬等には安全を配慮し厳重に管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故については報告、記録、対応策等の記録があり職員全員が目を通すと共に事故防止に努めている。母体施設の事故防止委員会に参加し、その内容をホーム内での事故防止について職員同士で話し合っている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は看護師資格を有する職員の日常的な指導で緊急時の応急手当を身に付けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設では消防計画に基づき今年防火訓練を毎年実施している。運営委員会において地震の際のマニュアルが無いのなら、早急に作成するよう要望があったので次回までに作成する旨回答する。		消防計画はあるが、職員が見て理解しやすい地震、火災などの防災マニュアルを作成する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについて家族には説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見と対応を職員が速やかにできるように職員間で絶えず話し合っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護従事者は利用者ファイルに記載されている服薬の内容や副作用について、理解し処方箋に従って服薬介助を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として十分な水分補給と医師の処方による服薬にて対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後利用者への声かけ、必要に応じた歯磨き等への支援、口腔チェック表を記録し保管に努めている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量が記録されている。また、献立のチェックは併設施設の管理栄養士が行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体施設の感染予防委員会に参加しており、そこで話し合われた内容はホーム職員に周知徹底を図り、感染対応マニュアルも作成されている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の除菌等は決められた手順に基づきルールどおり実施している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階に居るため出入り口がわかり易い、外来者のために出入り口の表示はしてある。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を展示したり、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方と話し合っ、室内の配置換えを時々行っている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には、利用者が自宅で使っていた馴染みのある品物を置くなどして、利用者が居心地よく暮らせるよう環境を作り配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の空調は職員が利用者に尋ねたり、動作から判断してリモコンで調整をしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を利用して安全に移動できるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所、食堂の自分の場所等は利用者の名前を付けて判りやすくしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩に出た時に休憩できるように花やベンチを置いてある。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)